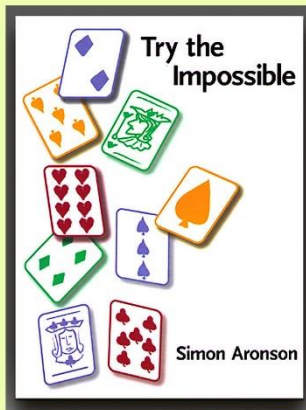


トライ・ジ・インポッシブル



TRY THE IMPOSSIBLE

BY SIMON ARONSON

(訳者より)

この「TRY THE IMPOSSIBLE (不可能への挑戦)」は、2001年に初版が出版されて以来20年が経っていますが、いまだにその輝きを失わないSIMON ARONSONの名著です。ただ、緻密な彼が精力的に書いた大著でもあるため内容豊富で、中にはもう手に入らないギャフカードを

使うものや、英単語のスペルを多用するもの、ARONSON STACKを暗記しないと出来ないもの、など難物もあります。また解説も緻密で、時には読んでいくのが大変なことさえあります。そこで、本解説書は原書を完訳するのではなく、「比較的易しく出来て、面白い」という訳者なりの基準でトリックをピックアップして訳してみたものです。それでも20以上のトリックとアイデアを取り上げることになりました。ARONSONのマジックへの入門書のイメージで、一部完訳部分を除いては解説も簡素化したり、補足したりしてあります。

原書は3つの章からなっていますが、訳者が今回是非紹介したかったのが第1章の「UNDO原理とそれを使ったトリック」です。これはまさに「易しく出来て、面白い」もので、この原理を知るだけでもこの本の価格分の価値は十分にあります。また、第3章の「ARONSON STACKを使ったトリック」も取り上げたものはすべて、スタックを覚えなくても出来るものなのでご安心ください。なお、原書のトリックの半数近くがプレイングカードの英語のスペルを使うものであり、この解説書で取り上げたトリックの中にも、プレイングカードの英語のスペルを使うものがいくつもありますが、これらには訳者も財布に入れて使っている「英数和対照カード」を使うことで対処できます。カードの内容は以下の通りです。

A (ACE)		クラブ
2 (TWO)		(CLUBS)
3 (THREE)		
4 (FOUR)		ハート
5 (FIVE)		(HEARTS)
6 (SIX)		
7 (SEVEN)	OF	スペード
8 (EIGHT)		(SPADES)
9 (NINE)		
10 (TEN)		ダイヤ
J (JACK)		(DIAMONDS)
Q (QUEEN)		
K (KING)		

訳者はプレイングカードのスペルを使うトリックをやる時は、財布からこのカードを取り出して、「今日はマジックを見ながら英語の勉強も出来ますよ」とか、「このトランプカードは米国製なので、英語で名前を呼んでやらないと出て来てくれないのですよ」などと言って演じています。また「英数和対照カード」を指しながら、「日本語では『ハートの5』などと言いますが、欧米では『FIVE OF HEARTS』と数字が先にくるのです」などと説明もします。某有名プロの方も彼のクローズアップライブで、同じようなカードを使ってスペリングトリックを演じていました。「英語のスペル」と聞いただけで無視するのではなく、捨てがたい味のあるものもありますので、是非お試しください。

前述のように、この解説書は原書の完訳版ではありませんが、「比較的易しくて、面白い」トリックやアイデアがあると思いますので、是非ご覧になってください。その中から、読者のレパートリーに入るものがいくつも見つかることを願っております。

はじめに（要約）

この本は、実態は1冊の本ではなく、3冊の独立した本です。そのうち2つは特別なテーマ、「UNDO INFLUENCE CONTROL」と「ARONSON STACK」を扱っています。したがって、その2つの章では解説されるトリックも性格の異なるものです。私はこの2つの分野を何年にもわたって掘り下げて研究してきましたが、この本でその成果をご覧いただけます。この両セクションのトリック達はそれぞれ完結し独立したトリックとなっていますが、すべてそれぞれの共通のベースに基づいています。

3番目はこの本の真ん中のセクションで、「ECCEN-TRICKS」（風変わりなトリック）と題しましたが、分野を問わないいろいろな独立したトリックとアイデアで構成されています。したがって、あなたのお気に入りのトリックがあるかもしれない反面、嫌いなトリックもあるかもしれません。

またこの本は、必ずしもすべてが読み易い内容ではないかもしれないことをお断りしておきます。出来るだけ解り易く書いたつもりですが、取り扱う題材自体が複雑なものである場合があり、理解に時間を要することもあるかもしれません。初めから皆さんを脅かす気は毛頭なく、アームチェア（ゆり椅子）で気楽に読めるものもありますが、基本的には今はやりのDVDとは違うので、デッキを手にじっくり読んでもらうことが必要です。この本は、ある日の午後に全部読めるような本ではありません。

JOSH（JOSHUA JAYの愛称）は私のことを「天才的」と言ってくれたことがあります。それは違います。「天才」とは突然のひらめきで独自に道を切り拓く人のことですが、私のトリックはそのような「天才的ひらめき」によって出来たものではありません。何回もの試行、再構築、精緻化、友人との議論などを経て、ようやく日の目を見たものばかりです。特に2人の友人、DAVE SOLOMONとJOHN BANNONはクリエイティブな高レベルの技を持つカーディシャンであり、私が「TRY THE IMPOSSIBLE（不可能に挑戦する）」と言う時は、この2人を満足させるということなのです。長年にわたる2人の支援とアドバイスにはとても感謝しています。彼らの貢献は、この本全体に及んでいます。

また、この本を書くにあたっての友人JOSH JAYの支援にも深く感謝します。JOSHはマジック雑誌に特集され、全国ネットのTVでもスポットライトを浴びている才能豊かな若いマジシャンで、この本に対しても尽きない批評とアドバイスを与えてくれました。粘り強く私の文章を正してくれた

り、私のトリックの彼自身のヴァリエーションも本書に投稿してくれています。私はマジックの持つ驚くべき力の1つに、すぐに年齢の壁を取り払うということがあると思っています。私は若い JOSH と交流することが楽しいし、こうしてマジックの世界は、世代間の壁を越えて永遠につながって行くのだと確信しています。

私は最近、法律の世界から引退したので、マジックにもっと時間を割けるようになりました。マジックを学び、練習し、創ることは、わが人生の最大の楽しみですが、気が付くと2001年は私がマジックを初めてからちょうど50年になります。JOSH とのやり取りの中で私も若い頃を思い出したので、人生の半ばを過ぎた今（私は57歳です）、私の作品群を時系列で並べてみましたので、興味あれば本書の最後の2ページをご覧ください（訳注：翻訳はしていません）。

私自身でハードカバーのマジックに関する本を書くとは思っていませんでしたが、いろいろな人がこの本を現実のものにするのに手を貸してくれました。わがままで、タイプも苦手な私と共に仕事をするのは、まさに「TRY THE IMPOSSIBLE（不可能への挑戦）」であつたらうと感謝し、同情しています。JOSH、JOHN BANNON、DAVE SOLOMON に加えて、私の秘書である LYNNE DOBRENICK は2年間にわたり、時には私の手書き原稿を読み解きながら下準備をしてくれました。その他、写真や、表紙カバーのデザインなど専門家の手をもわずらわせました。

でも、私のチーフエディターであり、出版者、批評家、管理人であるのは、やはり妻の GINNY です。彼女には私のこれまでの本でも助けてもらっていますが、今回も彼女のマジックへの尽きぬ愛情が、私の書いたことが正しいか、理解できるかをデッキを片手にチェックさせました。疲れを知らない彼女は、1つ1つのトリックやアイデアを実際に演じてチェックしてくれたのです。彼女が「CULL」や「REVERSE FARO」その他のテクニクと悪戦苦闘している姿には頭が下がります。そういう時は、私はいつも彼女のそばにるようにしていました。

どうかこの「TRY THE IMPOSSIBLE」を楽しんでください。そして皆さんが何かフィードバックしてくれるのを待っています。このコンピューターの時代に合わせて私の WEBSITE を立ち上げることも計画しています。

マジックの世界は、私にとって生きる喜びを感じさせてくれましたが、この本を通じて皆さんにもその喜びを感じてもらえたら幸いです。これからも「不可能に挑戦」し続けましょう。

2001年5月8日 SIMON ARONSON

1. UNDO INFLUENCE

(訳注:「UNDO」とは、「取り消す、もとに戻す」といった意味で、ここでは「客によるフリーな選択の効果を打ち消して、もとに戻す」といった意味が込められています。また同時に、客のカードの位置に影響(INFLUENCE)を与える、易しくて不思議なやり方です。この章では、この「UNDO」原理を使ったいくつかのトリックを解説しています)

PRIOR COMMITMENT (事前の決め事)

これは基本的には「予言」のトリックでもあり、この本の中でも人気の高いトリックとなるであろうことを予言したいと思います。2枚のジョーカーと52枚のレギュラーカードを使い、面倒な準備もなく基本的にセルフワーキングトリックです。プレゼンテーションの見地から言うなら、時間を取らないユーモラスなもので、最後には誰も予想できないクライマックスが待っています。しかし、もっとも興味深いのはそのやり方でしょう。とてもシンプルですが騙されるもので、一般の客、マジシャン、そしてあなた自身も不思議に思うことでしょう。

(現象)

シャフルしてテーブルに置かれたデッキから2人の客がそれぞれ何枚かのカードをカットして取り、カードを選んで覚えたら、またデッキをそろえます。客の作業中、マジシャンはデッキには触りません。マジシャンはデッキにお呪いをかけてから裏向きでリボンスプレッドすると、2枚のカードが表返っています。しかし、それらは客のカードではなく2枚のジョーカーです。

マジシャンは「ジョーカーは意味なく現れたのではなく、きっと客のカードを探すのを手伝ってくれるに違いありません。彼らは客のカードのある場所を知っているはずですよ」と言います。そして、マジシャンは1枚のジョーカーを耳にあてて、「ジョーカーが18という数字をささやいてくれました」と言ってから、18枚目のカードを取り出します。もう1枚のジョーカーで同じことをやって、例えば「43枚目」のカードを取り出します。客によるカードの選択がフリーチョイスであり、マジシャンには客達が何枚のカードをカットしたのかわからないにも関わらず、取り出した2枚のカードを表向きにすると客のカードなのです!

マジシャンは、「ジョーカーが数字をささやいてくれたことを客が信じられないのも分かります。しかし、本当にジョーカーが教えてくれたのです」と言います。そして、おもむろに2枚のジョーカーを裏返すと、そこにはそれぞれ「18」と「43」と、大きな字で書かれているのです(P3 図1)!

(やり方)

たいていの予言は、初めに予言が取り出され、客がカードを選び、最後に予言を開けると当たっているといた直線的な展開となっています。それはそれで良いトリックですが、2つの難点があります。

1つにはトリックの結末がある程度予測出来てしまうケースが多いことであり、2つには(結果が予想出来てしまっている)客の注意がやり方を見破ることに向かいやすいということです。つまり、折角のプレゼンテーションを味わうことなく、どうやるかの追求に走ってしまいかねません。

このやり方では、客に予言の存在を最後まで気づかないプレゼンテーションとなっており、「PRIOR COMMITMENT (事前の決め事)」というタイトルが、最後に生きてきます。

・準備

これには52枚そろったレギュラーデッキが必要です(52枚ないとできません)。また2枚のジョーカーを使いますが、出来ればフェースが異なるものが良いです。BICYCLEやTALLY-HOブランドのデッキにある2枚のジョーカー(カードの保証文言のあるものとないもの)などが使えます。レギュラージョーカーの裏に「18」と、パーマネントインクのマーカーでハッキリと書き、保証文言のあるジョーカーの裏には「43」と書いておきます。これが唯一の準備であり、一度準備すればずっと使えます。

—以下省略—